

常陽銀行情報誌

レポート

J-REPORT

2018

トップインタビュー

時代と顧客のニーズに
応える事業を展開

特集

伝統工芸「結城紬」を世界へ

～結城紬、ロールス・ロイスと連携し販路拡大～

もっと身近で、
もっと便利な銀行を目指して

～デジタル技術で通帳、窓口の利便性向上～

時代と顧客の ニーズに応える事業展開で 地域と共に発展する未来を創る



時代の要請に応える事業を展開

高齢化・人口減少にともない地域経済の縮小が急速に進行するなど、社会構造が大きく変化するなか、日銀のマイナス金利政策の長期化やIT企業による相次ぐ金融サービスへの参入などの影響を受け、金融業界、とりわけ地域金融機関の経営環境は一層、厳しさを増しつつあると考えています。しかし、その原因の大半は、大きく変化する社会と経済の状況に、少なからぬ金融機関が適合できていないことにあるのではないのでしょうか。それならば、時代にマッチする企業体制を整備し、時代と顧客のニーズに応える事業を展開していくこと以外に解決策はありません。

そのためにも、当行はこれまで推進してきた伝統的な銀行業からの脱却をさらに加速させ、「めぶきフィナンシャルグループ」としての広域ネットワークを活用しつつ、地方銀行ならではの強みを生かした幅広いサービスの提供でお客さまに貢献してまいります。

たとえば、私たちは地方銀行として、地域のさまざまな業界・業種のお客さまが抱える課題や商品・サービスの特長などに関する情報を把握・蓄積しています。これらの情報を一元的に管理・

分析することで、より精度の高いソリューションをお客さまに提供する事業の展開が可能になります。今後は、コンサルティング事業をはじめとする、従来の銀行業務の枠組みを超えた事業分野への挑戦をさらに継続していきたいと思っています。

デジタル化のさらなる推進を実現

言うまでもなく、時代の要請に応えるには、あらゆる情報のデジタル化は不可欠であり、現在、喫緊の課題として、そのためのインフラ整備に取り組んでいます。スマートフォンをデバイスとしたサービスとしては、すでに提供している「常陽銀行通帳アプリ」をベースに、さらなる新サービスを付加していきます。加えて、融資業務にAIを活用する試みも、実験段階をすでに終え、実用化へ向けた調整を行っているところです。

業務の効率化と生産性の向上を実現し、新たに確保した人的資源をフェイス・トゥ・フェイスでのお客さま対応に特化した形で投入する。この目的を達するための必要な手段が、情報をデジタル化すること、AIを活用すること、そして間接業務を自動化するRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を導入することの狙いであり、

複数の分野での取り組みを推進しています。これからも、新たなデジタル技術を積極的に取り入れ、より先進的で、利便性の高い商品・サービスの開発と提供に取り組んでまいります。

すべての人のための未来を創る

企業の持続可能な社会への貢献が一層、求められる時代のなか、私たちは地域に地盤を持つ強みを生かしながら、さらに多彩で質の高い総合金融サービスの提供を実現し、地域とお客さまに貢献していきます。地域社会の人々やお客さまをはじめとするすべての人が、これまで以上に成長と発展を実感できるような企業を目指し、30年後、あるいは40年後に「常陽銀行とお付き合いしてよかった」と感じてもらえるような銀行にしていきたいと思っています。

今後も、これまで取り組んできた地域の未来創造へ向けた取り組みを継続しながら、未来を視野に入れ、地域のお客さまとともに成長する銀行を目指すべく、役職員一同全力でを尽くしてまいります。引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2018年10月

取締役頭取 笹島律夫

CONTENTS

- P1 トップメッセージ
- P3 新たな風をよびこむ 歴史ある街並みに
～常陽のある街 結城市編～
- P5 伝統工芸「結城紬」を世界へ
～結城紬、ロールス・ロイスと連携し販路拡大～
- P7 旧体育館を活用、土を使わず野菜を周年栽培
～植物工場で葉物野菜を生産～
- P9 もっと身近で、もっと便利な銀行を目指して
～デジタル技術で通帳、窓口の利便性向上～
- P11 翔べ 羽ばたけ そして未来へ
～いきいき茨城ゆめ国体・大会を応援～
- P13 業績ハイライト
- P14 店舗網 会社概要

常陽の ある街 結城市編

紬のふるさと

本場結城紬のふるさと結城市は、都心から約70キロ圏にあり、茨城県と栃木県の県境に位置し、中世時代この地を治めた結城氏が作り上げた城下町の街割がそのまま残る歴史のある街です。

結城氏の菩提寺など古くからの寺社が多く、また商店街にはかつて県西随一の商業都市として繁栄したあかしもいうべき蔵造りの建物が散在し、落ち着いた風情をかもし出しています。



▲ 称名寺 結城家初代朝光が親鸞の高弟・真仏を招き開基した、浄土真宗本願寺派の寺院。親鸞の直筆といわれる「往生要集」や朝光肖像画など数々の文化財を所蔵。



▲ 孝顕寺 (こうけんじ)

結城家15代政朝が開基。永正寺といわれていたが、1599年、現在の地に18代秀康により再建され、孝顕寺と改称された。結城水野家の菩提所。



▲ 弘経寺 (くわんけいじ)

1595年、徳川家康の次子で結城家の養子となった18代秀康が長女松姫の菩提を弔うために創建した寺院。



▲ 見世蔵 (みせくら)

結城市内には、明治初期から大正期に建築された蔵作りの建物が点在しており、現在も紬問屋や老舗の商店などで利用されている。

新たな風をよびこむ



結城市は、1年を通じて、街の魅力を生かしたイベントが多く開催される活気のある街です。鎌倉時代より継承されているともいわれる「結城夏祭り」は、支店一同、お神輿の担ぎ手として参加しています。また、「結城盆踊り大会」では、練習の成果もあり、見事優秀賞をいただきました。これからも、結城市の皆さまとともにさまざまなイベントに参加し、結城を盛り上げていきたいと思ひます。



結城支店

寺院や文化財が多く点在する、城下町「結城市」

「伝統・歴史」と「現代」をつ

結城市は、「伝統と歴史」を感じながら、結城の「今」を体験できる参加型

きものday結城 (きものでゆき)

「きものを着て結城の街並みを散策」をテーマに、参加者が結城紬や各自用意した着物を着て、街を散策するイベント。結城紬の着心地体験等も行うなど、結城紬のPRと着物を着る機会の継承を目的に開催しています。

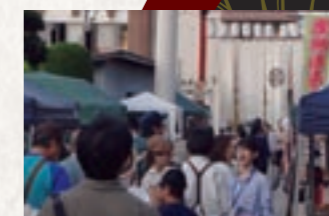


なぐイベントで地域活性化

イベントを数多く開催し、地域の魅力を積極的に発信しています。

結い市 (ゆいいち)

歴史的な街並みが残る北部市街地で、神社の境内や蔵などがマルシェやコンサート会場になり、全国から集まった芸術家の作品やアーティストのライブを楽しめるイベント。



結城

歴史ある町並みに

伝統工芸「結城紬」を世界へ ～結城紬、ロールス・ロイスと連携し販路拡大～

先人たちが築き上げてきた伝統工芸は、当地にしかない貴重な地域資源です。当行では、茨城県を代表する伝統工芸「結城紬」のブランド力向上と販路拡大支援を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。

課題

- 時代の流れにより着物人口が減り、需要激減
- 新たな販路開拓、客層へのアプローチが必要

強み

- 熟練職人の手作業による高い技術力
- 1956年重要無形文化財指定、2010年ユネスコ無形文化遺産に登録などの希少性
- 伝統を大事にしながら、新しい製品にも意欲的に取り組む同社の経営姿勢

常陽銀行の提案

英国を代表する最高級車ロールス・ロイスとの タイアップイベントを開催

■当行のネットワークと販路拡大支援のノウハウを活用

新たな販路拡大の第一歩として、これまでに結城紬に馴染みがないお客さまへのPRが必要と考え、本部と支店が連携し、異業種とのタイアップイベントを企画。タイアップ先には、結城紬と同じように、職人のクラフトマンシップによって生み出される至高の品を作っていること、また伝統を大切にしながらも新しいことに挑戦しているなど共通点があるロールス・ロイスに声掛けをしました。



結城支店 前支店長 (現：福島支店長) 高橋 博明

本場結城紬

真綿から手でつむいだ糸を使い、熟練した職人による四十数工程の中で、その風合いは、最高峰の絹織物として古来より多くの人々を魅了する中、縦糸、横糸の両方に手つむぎ糸を使うのは本場結城紬。奈良時代の絹織物「紵(あしぎぬ)」が原形と言われています。今も古来からの技法が受け継がれ、「糸つむぎ・緋くくり・地機織り」化財に指定されています。また、「結城紬」は、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

世界へ 路拡大

奥順



Rolls-Royce

奥順×ロールス・ロイス タイアップイベント

2018年4月13日～15日に、奥順株式会社 つむぎの館で、結城紬を着用して、歴史ある結城市内をロールス・ロイスで走る試乗会を実施。着心地、乗り心地を五感で感じていただくイベントを開催しました。

結城紬は、お客さまにとって本当に着心地がいいもの、風合いがいいものを作るため、時代の流れに負けずに、職人が伝統的な製法を守りつむいでできました。結城紬とロールス・ロイス車には、妥協を許さず、一点一点どれだけ納得のいくものを作るかに心血を注いでいる点が共通していると感じました。

本イベントでは、お客さまに結城紬のしなやかで軽い「着心地」のよさをロールス・ロイスの包まれる「乗り心地」とともに五感で味わっていただくことで、結城紬への理解をより深めていただけました。

今後も、伝統を大切にしながら、着物にとどまらず、新しい分野にも挑戦していきたいです。



代表取締役専務 奥澤 順之氏

今回のイベントは、「職人の手仕事による至高の品」という共通点を持つ両社を引き合わせる大変おもしろい企画だと思いました。製品、業種は違えども、「手仕事による本物」には、共通して「お客さまに本当にいいものを届けたい」という職人の魂と細部にまでこだわった技のすばらしさがあります。世界に結城紬のよさを発信していくため、これからも銀行に、多くのお客さまと接点を持てるような提案を期待したいですね。



代表取締役社長 奥澤 武治氏

糸つむぎ



手仕事を経て織られる絹織物了してきました。

だけです。結城紬の歴史は古の三工程は日本の重要無形文化遺産にも登録されています。

奥順

社名 奥順株式会社
創業 1907年
本社 〒307-0001 茨城県結城市大字結城12-2
資本金 6,000万円
代表者 代表取締役社長 奥澤武治

旧体育館を活用、土を使わず野菜を通年栽培

～植物工場で葉物野菜を生産～

常陽銀行と足利銀行は、「めぶき地域創生ファンド」の第9号案件として、株式会社野菜工房様への投資を決定しました。金融面における支援のほか、めぶきフィナンシャルグループの機能と広域ネットワークを活用したさまざまな取り組みを行っていきます。

株式会社 野菜工房

社名	株式会社野菜工房
設立	2008年9月11日
本社	〒368-0067 埼玉県秩父市みどりが丘70番地
資本金	5,545万円
代表者	代表取締役社長 周藤一之

2018年12月、屋内で土を使わない植物工場を運営する「野菜工房」様は、茨城県那珂市に同社3つ目の植物工場を稼働予定。すでに埼玉県秩父市と福井県南越前町に植物工場を構え、両工場ですべて1日4,600株を生産している。新工場では、福井県の工場で生産してきた関東向けの業務用野菜を栽培し、1日4,000株の生産を目指す。

植物工場とは?

「野菜工房」の植物工場では、外界から遮断された建物の中で人工光と霧状にした養液を噴霧するシステムを使用し、レタスを中心とした葉物野菜を栽培しています。害虫や天候に影響されることなく、年間を通じ安定的に野菜を供給できます。

「年間を通じて、同じ価格、品質」がモットー

当社は、露地栽培では難しかった安定供給できる野菜作りを目指しております。また、当社の作る野菜は、管理された工場内で栽培するため、「洗わず、甘い、あんしん野菜」です。

地域の雇用に貢献

新工場は、地元からパートを20名程度採用する予定です。私どもの工場では、軽作業かつ、勤務時間がある程度自由なので、育児または介護をしている方、高齢の方もいらっしゃいます。雇用の面から、地域貢献できるのではと考えております。

今後について

「現代人は、野菜不足」と言われており、これは、野菜のマーケットはまだ伸びる余地があると私はとらえています。

当社の工場の設計コンセプトや運営ノウハウを活用して、同じように安定した生産ができる仲間を増やすソフトビジネスもやっていきたいと思っております。

常陽銀行には、今後も、銀行のネットワークを生かし、さまざまな紹介をしてほしいと思っています。



代表取締役社長 周藤 一之氏

今後の野菜作りについて

野菜の成分を調整する技術を活用し、健康の増進に役立つ成分が多い野菜、もしくは、病気等で特定の成分の摂取を控えている方でも食べられる野菜を作ること、そして、当社のノウハウを生かし、世界中どこにいても、旬な状態の野菜を食べられるようにすることが目標です。

植物工場は、農業経験の有無は関係なく、むしろ営業や経理をはじめ、物理、化学の知識が活かされる分野です。農業が盛んな茨城県だからこそ、農業に携わってみたいという方は多いのではないのでしょうか。そんな地域の方々と一緒に野菜作りができたらと思っています。

茨城県出身



取締役 研究開発部長兼生産部長 落合 祐介氏

現代人は野菜不足

必要とされる
摂取量

1日 350グラム



2016年野菜摂取量の平均値 (厚生労働省HPより)

現状

1日 276.5グラム

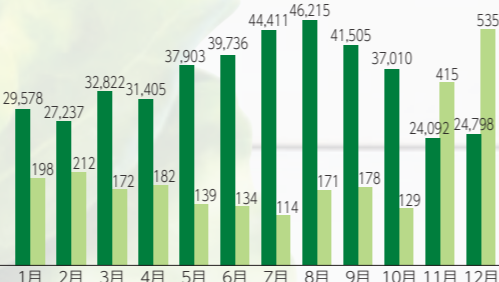


(成人)

農業の課題

収穫量や価格が季節、天気に左右されやすい

■ 卸売数量 (単位: t) ■ 卸売価格 (単位: 円/kg)



「青果物卸売市場調査 (2017年年間計及び月別結果)」(農林水産省)より (農林水産省のHPより)

植物工場 建設



旧体育館を活用

植物工場のイメージ



野菜工房 福井南越前工場

めぶき地域創生ファンド

ファンド概要

名称	めぶき地域創生ファンド (めぶき地域創生投資事業有限責任組合)
対象	常陽・足利両行の茨城・栃木県を中心とする営業地盤において地域経済の振興に資する事業を行う中小・中堅企業など
ファンド規模	40億円
組合員構成	(株)常陽銀行、(株)足利銀行、損害保険ジャパン日本興亜(株)、(株)常陽産業研究所、(株)あしぎん総合研究所
存続期間	10年間 (2016年11月14日～2026年10月31日)
業務運営 (GP)	(株)常陽産業研究所、(株)あしぎん総合研究所

実績(2018年7月末時点)

投資件数 9件
投資額 17.7億円

めぶき地域創生ファンド

地域の発展に資する事業や地域固有の課題解決に取り組む事業を応援



「地域とともにやっていきたい」という周藤社長の思いを形にできるような、事業ステージに合わせ、当行お取引先のご紹介やグループ会社を活用したリースや保険等のご提案など、めぶきフィナンシャルグループとしての強みを生かした提案をしていきたいと思っております。

常陽銀行 菅谷支店長 世古 賢次

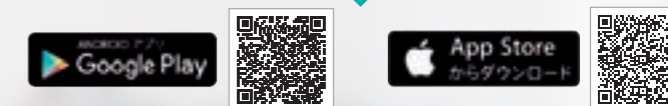
今回の工場は、民間が所有していた既存の体育館を活用しており、未利用財産の活用という点からも注目しています。天候に左右されない植物工場は新しい農業のモデルケースであり、地域の産業振興と雇用促進に繋がる取り組みを期待しています。

常陽産業研究所
ファンド事業部次長 田所 篤



もっと身近で、もっと便利な銀行を目指して ～デジタル技術で通帳、窓口の利便性向上～

「常陽銀行通帳アプリ」
のダウンロードはこちら



お客さまの利便性、
サービスの向上



スマホアプリ

いつでも、どこでも、簡単に
残高や入出金の確認ができる

「常陽銀行通帳アプリ」 の提供

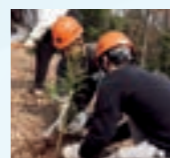
- 手元で簡単に「預金残高」「入出金明細」確認
- 家計簿代わりに使える便利なメモ機能
- 入出金、キャンペーン情報等をプッシュ通知でお知らせ



環境保全へ貢献

通帳(紙)の削減 ▶ 環境保全

「常陽銀行通帳アプリ」のダウンロード数に応じた金額を環境保全団体へ寄贈



寄付金総額 約60万円

テレビ電話

専門性の高い相談ができる

テレビ電話の活用

- 少人数運営店舗に近隣の支店とつながるテレビ電話を設置
- 専門性の高いご相談も承ります



店頭受付ナビ

お客さまの手間を軽減
待ち時間の短縮

タブレット端末の活用

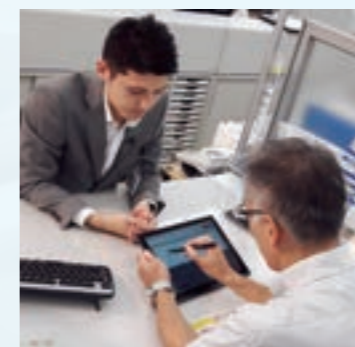
- 書類記入不要
- 印鑑押印不要
- 待ち時間の短縮

タブレット端末で完了する手続きの例

- 新規口座作成
- 住所や氏名、印鑑等の変更届
- インターネットバンキングの申し込み等

処理時間 (住所変更手続きの場合)

18分 → 6分 (12分削減)



当行の
生産性の
向上



- お客さまのご相談を承る時間の拡大
- 少人数運営店舗によるコスト削減
- 創出した人員を成長エリアに再配置



時代とお客さまのニーズに応えられるよう、デジタル技術を積極的に取り入れ、先進的で利便性の高い商品・サービスの開発と提供に取り組んでまいります。

スマートフォンで通帳機能を利用できるアプリの提供をしています。当行のキャッシュカードをお持ちの個人の方であれば、どなたでもご利用いただけるアプリで、より便利に使いやすいよう新機能を随時追加しています。また、テレビ電話を活用した少人数運営店舗「クイックステーション」を開設し、行員の人数が限られている店舗でも、近隣の支店と

同様に、資産運用や融資のご相談、専門性の高いご相談を承れる体制を整備しています。さらに、店頭における事務手続きの一部をデジタル化することで、お客さまの負担の軽減や待ち時間の削減に努め、サービスの向上を図っています。

デジタル化によって生み出される時間と人員は、お客さまへの提案や価値あるサービスの創出に生かしてまいります。また、店舗運営の効率化により、コスト削減を図り、さらなる商品やサービスの開発、拡充につなげていきます。

未来へつなぐ



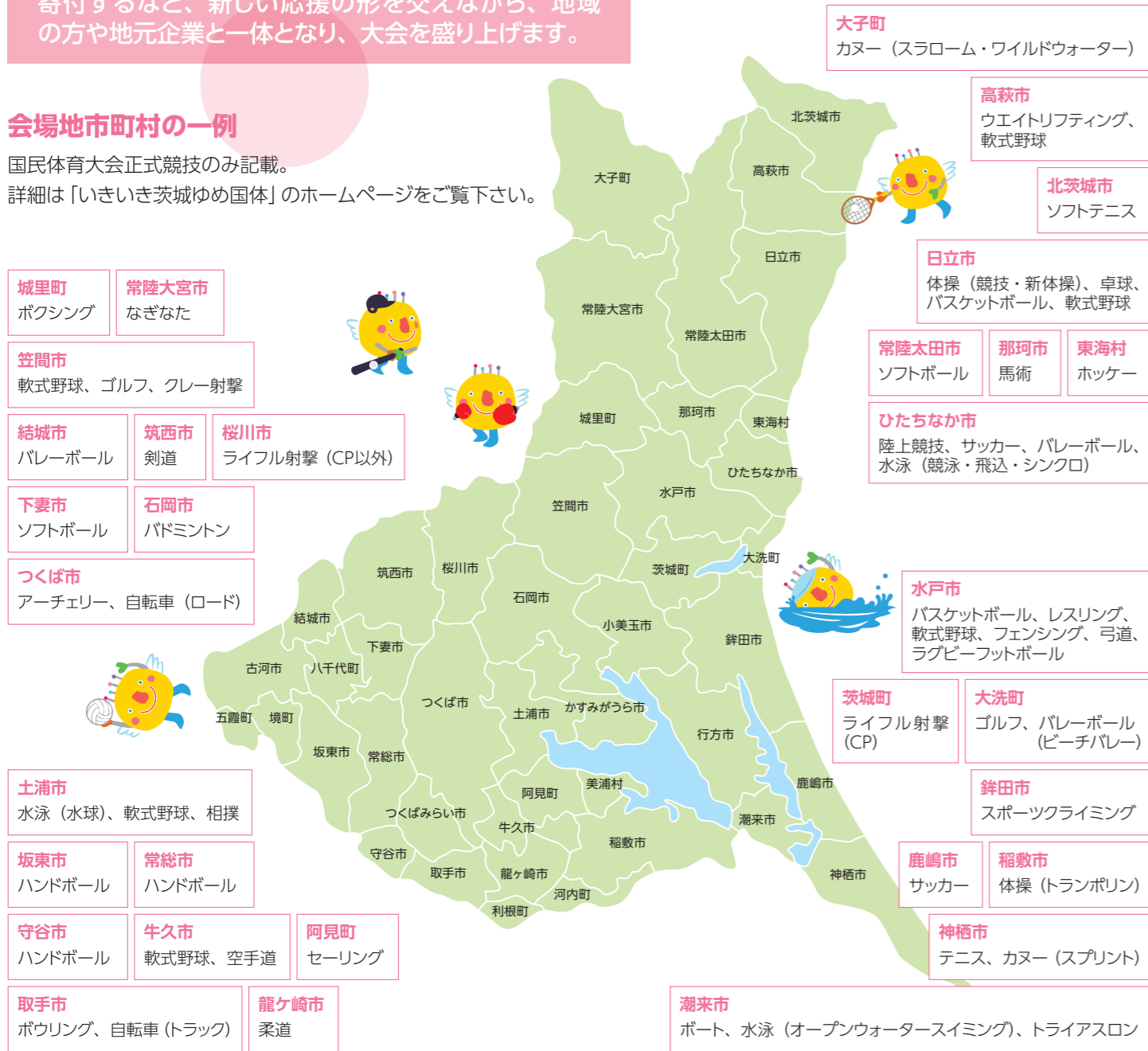
当行は、2019年9月28日から開催される「いきいき茨城ゆめ国体」および2019年10月12日から開催される「いきいき茨城ゆめ大会」の国体パートナーとして、地域の皆さまとともに両大会を盛り上げていくため、さまざまな取り組みを行っています。

創意工夫で大会を応援

「いきいき茨城ゆめ国体」は、既存施設を活用することで簡素化を図るほか、住民との連携を深めるため、広く茨城県内各地で開催されます。当行は、私募債の手数料の一部を活用し、大会で利用する物品等を寄付するなど、新しい応援の形を交えながら、地域の方や地元企業と一体となり、大会を盛り上げます。

会場地市町村の一例

国民体育大会正式競技のみ記載。
詳細は「いきいき茨城ゆめ国体」のホームページをご覧ください。



2019 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

いきいき茨城ゆめ国体

第74回国民体育大会



いばらッキー

いきいき茨城ゆめ大会

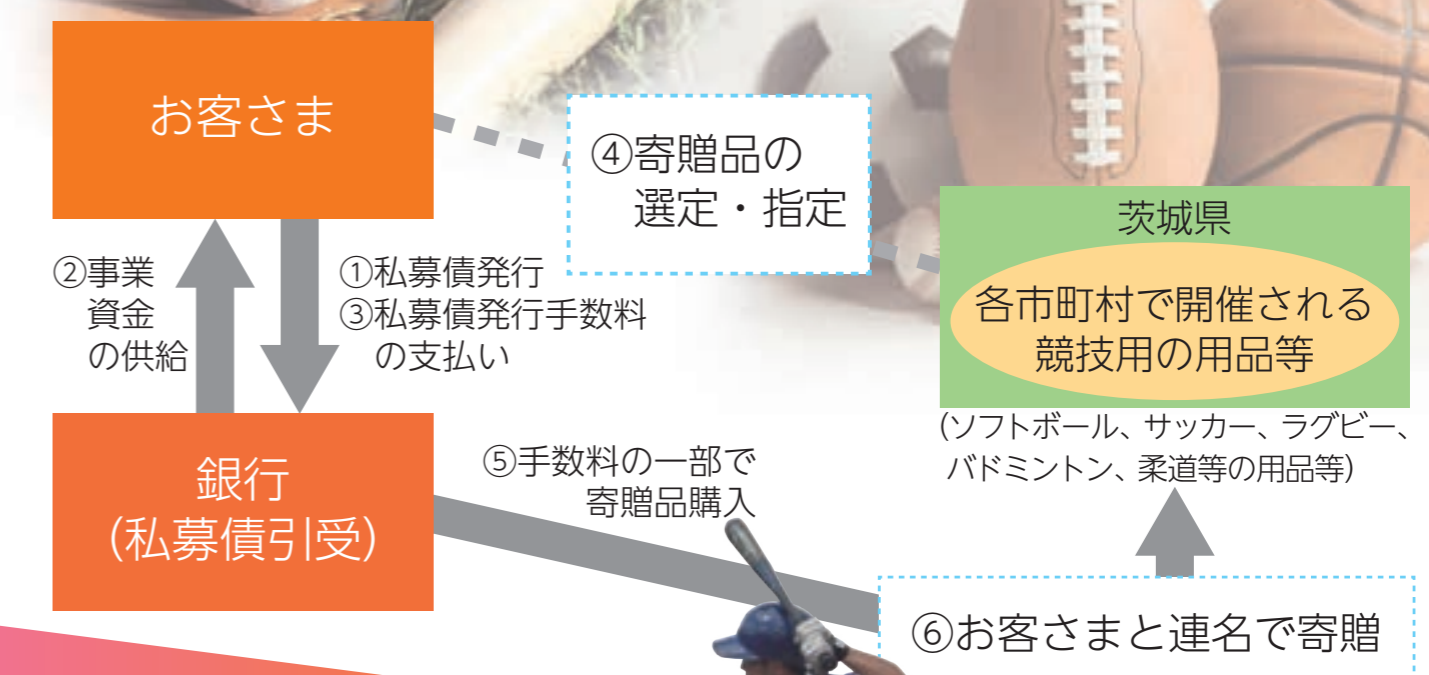
第19回全国障害者スポーツ大会



常陽銀行は「いきいき茨城ゆめ国体」および「いきいき茨城ゆめ大会」を応援します

いきいき茨城ゆめ国体・大会応援債

お客さまが発行する私募債の手数料の一部を活用し、「いきいき茨城ゆめ国体」「いきいき茨城ゆめ大会」で使用される物品等を茨城県に寄贈しています。これまでに、茨城県内19市町村で実施される競技に対し、寄贈をいたしました。(2018年7月末現在)



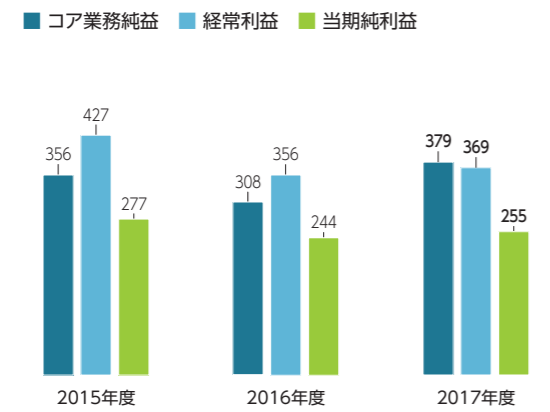
常陽銀行野球部 出場決定

応援していただいている方への感謝の気持ちを忘れず、全力プレーで勝利を目指します。

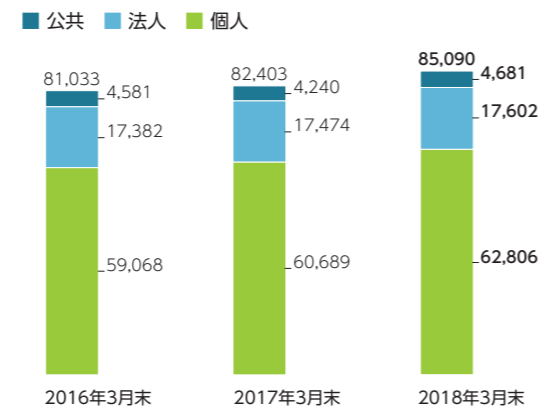


業績ハイライト (2018年3月期 常陽銀行単体)

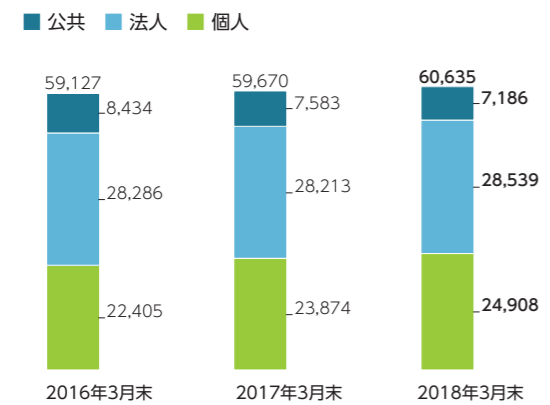
収益の状況



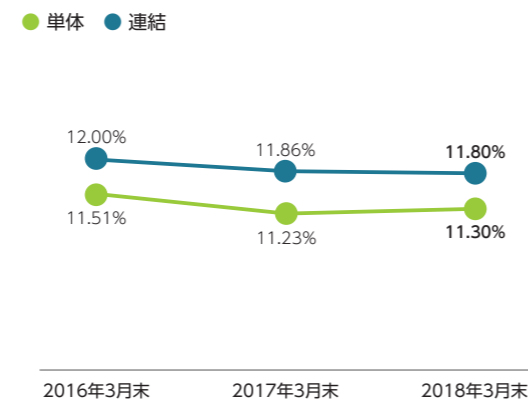
預金残高



貸出金残高

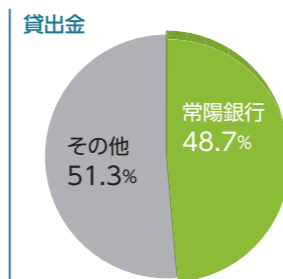
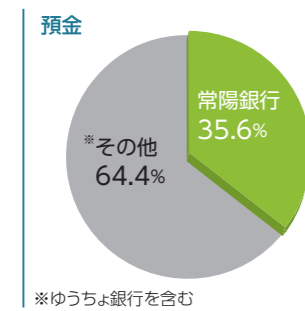


自己資本比率の状況



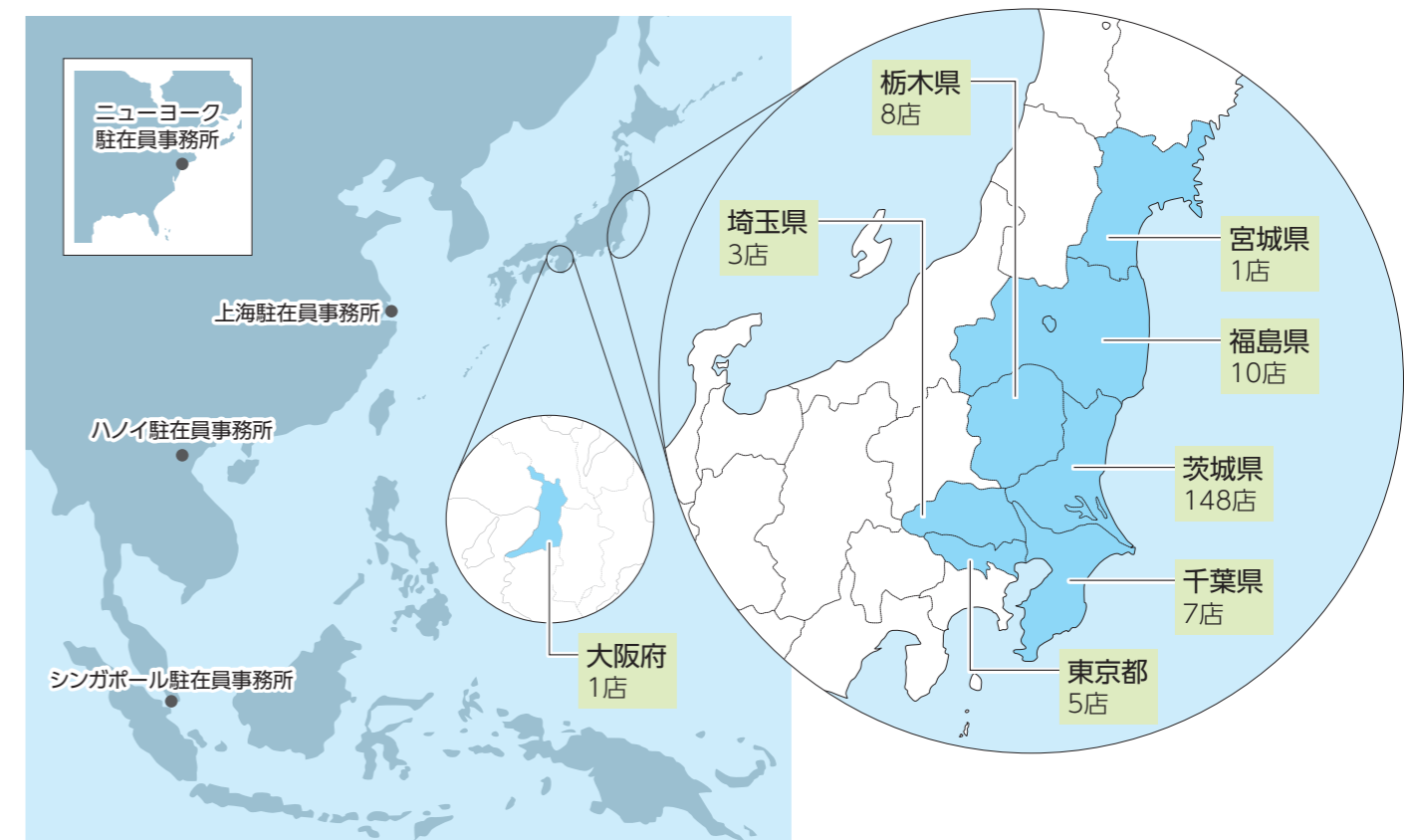
〈茨城県内シェア〉

預金・貸出金ともに、茨城県内で高いシェアを確保しています。



(金融ジャーナル2017.12増刊号より作成)

店舗網 国内:183店 海外:4か所 (2018年3月31日現在)

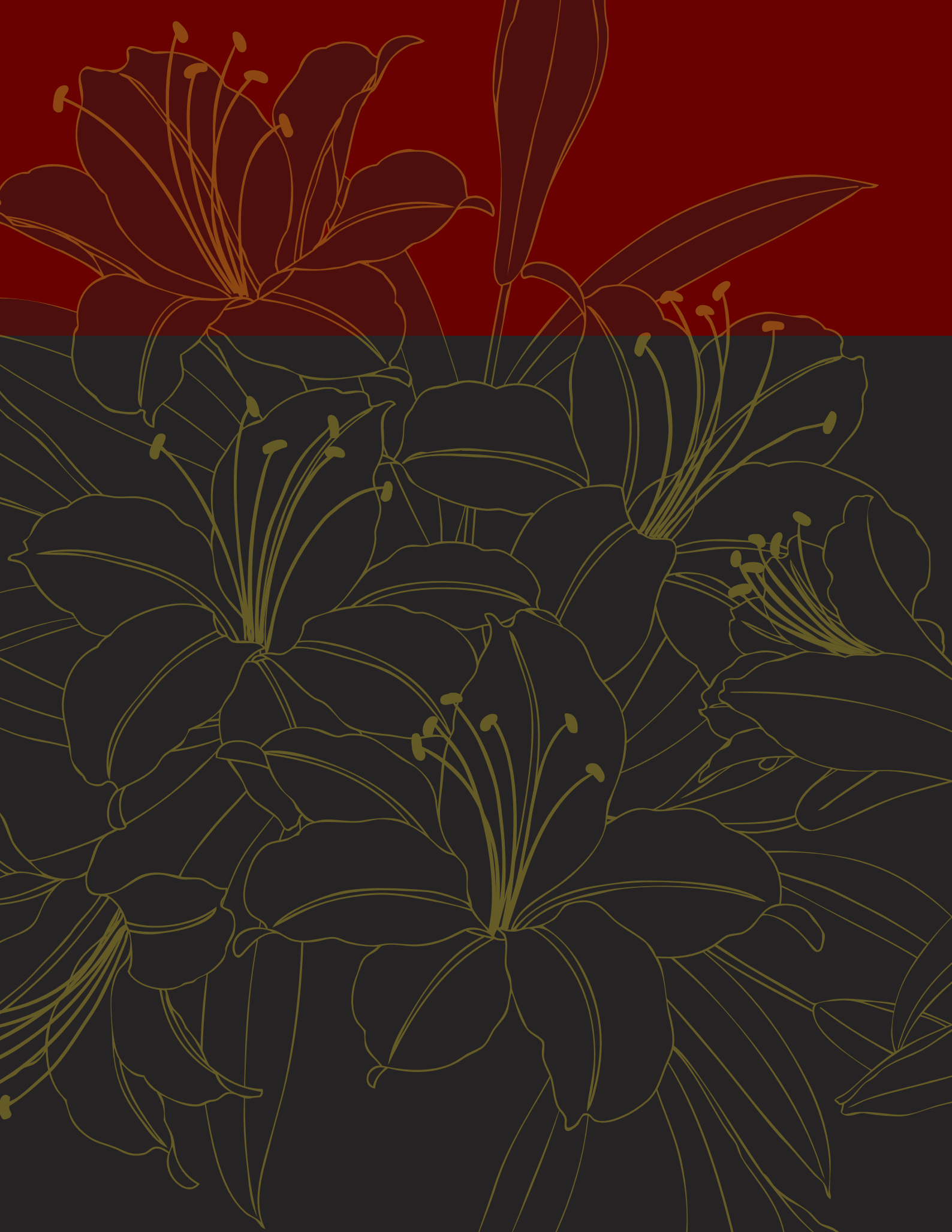


会社概要

株式会社 常陽銀行 (2018年3月31日現在)

創立	1935年7月30日	従業員数*	3,332名 ※出向者等を除きます
本店	茨城県水戸市南町二丁目5番5号	格付	A+ (格付投資情報センター) A2 (ムーディーズ)
資本金	851億円		





常陽銀行 経営企画部広報室
〒310-0021 水戸市南町2-5-5 TEL 029-231-2151(代表)